

竜巻は、非常に発達した積乱雲によって発生する激しい渦巻きです。
多くの場合、竜巻は上から伸びる柱のような形の雲を伴います。

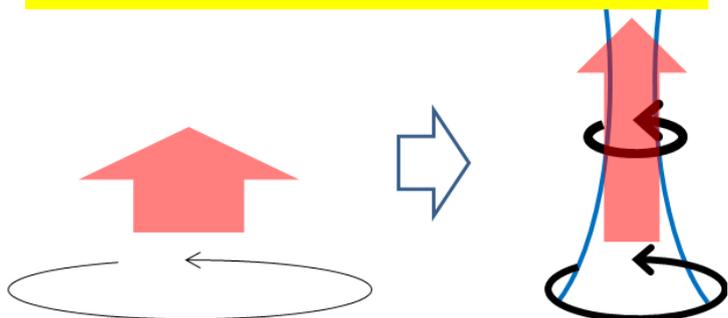
① 竜巻のできる仕組み

渦巻きには縮まると回転のスピードが速まる性質があります。

例えば、フィギュアスケートの選手が、回転している間に手足を伸ばすと回転のスピードが遅くなり、手足を縮めると回転のスピードが速まるのは、この性質のためです。

それと同じように、地面付近にあった弱い渦巻きが、積乱雲の強い上昇気流によって上下に引き伸ばされると、下図のように細く縮められて回転のスピードが速まります。このような仕組みで、とても強くなった渦巻きが竜巻です。

渦巻きが上昇気流で引き伸ばされると、細くなるとともに回転のスピードが速くなる



② 竜巻はどこで発生してもおかしくない

竜巻は、平均すると日本全国で1年間に25個ほどの数が確認されています。

また、積乱雲が発達しやすい前線、低気圧、台風などの接近に伴って竜巻が確認される場合が多いです。前線や低気圧などの接近はめずらしいものではありませんので、竜巻も人ごととは言えません。

右の図は、1961年から2014年にかけて確認された竜巻の場所の分布です。この図からは、海ぞいで竜巻が多く確認されていることや、竜巻が日本のどこで発生してもおかしくないことが見てとれます。



竜巻は、非常に発達した積乱雲によって発生する激しい渦巻きです。

多くの場合、竜巻は上から伸びる柱のような形の雲を伴います。

竜巻は激しい突風を吹かせるため、車が飛ばされたり、家が破壊されることもあります。

① 緊急事態！！竜巻が近づくサイン

「ものやゴミなどが巻き上げられながら飛んでいる」、「土煙が近づいてくる」、「耳鳴りがする」、「ろうと雲が見える」、「ゴーンという音がする」などは、竜巻がすぐ近くに迫っているサインで、もはや緊急事態です。このような異変を感じたら、急いで頑丈な建物に避難しましょう。



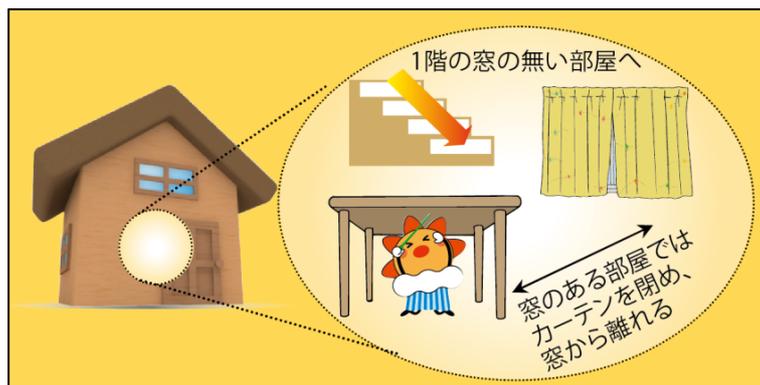
② 竜巻から身を守る方法

竜巻から身を守る方法は、まずは急いで頑丈な建物の中に逃げることです。しかし、まだ安全とは言えません。

もし余裕があれば、窓ガラスが割れても飛び散らないように、さっとカーテンや雨戸を閉めてしまいましょう。そして、できるだけ1階で家の中心部に近い、窓の少ない部屋（押し入れ、トイレ、浴室など）に移動しましょう。頑丈な机などがある場合は、その下や後ろに隠れ、両腕で頭と首を守ります。

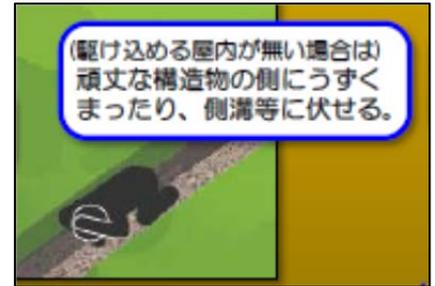


頑丈な建物に逃げこんだからといって、窓にへばりついて竜巻の写真や動画を撮るのはもってのほかです。風があまりにも強いため、窓ガラスが割れて破片が飛んできたり、既に破壊された家などの破片や樹木が窓や壁を突き破って飛んできたりするからです。



外で、逃げこめるような建物がないときに竜巻に出会ってしまったら、大ピンチです。

鉄筋コンクリートの大きな橋などの頑丈な建造物の陰にかくれたり、側溝や水路に入って身をふせて、両腕で頭と首を守りましょう。



車や物置などは、飛ばされたり破壊されたりするので危険です。しかし、側溝や水路などは雨が降り出すと危険な場所に早変わりしますので、竜巻をやりすごせたらすぐに頑丈な建物の中に逃げこむようにしましょう。

③ 竜巻が発生するおそれを感じたら

竜巻に出会ってから逃げ場所を探すようでは大変です。

竜巻は非常に発達した積乱雲に伴って発生することがわかっていますので、積乱雲が近づくサインに気づいたら、すぐに頑丈な建物の中に避難しましょう。

建物の中に入ったら、カーテンや雨戸を閉めて、建物の中心部に近い、窓の少ない部屋に移動します。2階より1階のほうがより安心です。

雷が聞こえる	冷たい風が吹く	黒い雲が接近
		
<p>積乱雲が近づくサインは、 竜巻が発生するかもしれないというサイン</p>		
<p>頑丈な建物に 逃げ込む。</p>		<p>雨戸、窓、カーテン を閉める。 建物の中心付近の 安全な部屋へ。</p>
		